教育学研究科のディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシー …… 157

授業科目及び履修方法

1　授業科目表 …… 158

2　履修上の注意 …… 160

3　修士論文の作成等について …… 160

4　在学中の学会参加・学会発表について …… 161

5　在学中の論文投稿について …… 161

6　修士論文の審査に関する内規 …… 161

教育学研究科　３つのポリシー

【人材育成の目標】

現代の教育をめぐる諸問題に高い見識と実践力をもって，指導的な立場で対処できる教育実践者及び教育支援者の育成を目標とする。そのため，課題探求意識のもと，教育実践と教育支援に関する理論と実践の融合をはかり，現代の教育現場に活用し得る教育研究能力を涵養する。

【ディプロマ・ポリシー（修了認定及び学位授与の方針）】

初等教育学コース，幼児教育学コース，養護教育学コース，特別支援教育学コース，教育臨床心理学コースのいずれかのコースの所定の単位を修得し，必要な研究指導を受けた上，学位論文の審査および最終試験に合格した者，すなわち，教育実践，あるいは心理臨床実践に関する深い学問的知識と高度な研究能力を身につけ，それを学校や地域の教育課題に指導的立場で対応できる高い専門性と実践的視野を兼ね備えた教員としての資質と能力，あるいは臨床現場の要請に対応できる心理臨床の資質と能力を備えている者に対して，修士(教育学)の学位を授与する。

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）】

すべての学生が共通に履修できる教育基礎学分野を置くとともに，自らの専門的知識・技能を深める教育内容指導学分野及び教育支援学分野の専門科目群を配置し，さらに，教育現場を多面的・体験的に理解し，教育実践者・研究者としての実力を高める教育実践学分野として教職実践研究を用意している。

そして，教育基礎学科目，専門科目，教職実践研究で学んだことを統合し，自らの課題意識に即して研究を遂行する能力を育成するために，修士論文を課している。

教育実践と教育支援に関する高度に専門的な知識を獲得し，理論的探求力を涵養するとともに実践的応用的能力や技能を身につけることのできるカリキュラム編成となっている。教育臨床心理学コースでは，臨床心理士養成課程の指定カリキュラムに準拠し，心理教育相談室での実習を軸とした幅広い心理臨床実践の能力を身につけられるカリキュラム編成となっている。

【アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）】

教育学研究科は，次のような人を求めている。

1．教育実践及び教育支援を担う強い使命感と熱意をもつ人
2．高度で専門的な知識や実践的指導力を身につけたいという意志を持つ人
3．研究の成果を学校や地域社会に還元したいという意欲のある人
4．初等教育，幼児教育，養護教育，特別支援教育に関する教職資格を取得している人，あるいは，これらの教職経験のある人
5．学部において心理学に関する基礎的知識・技能を修得し，さらに臨床心理に関する高度な専門的知識と実践的能力・技能を獲得したい人

1　授業科目表

大学院教育学研究科　教育学専攻

授業科目の区分		授業科目	単位数	配当年次	開講期	授業形態	履修上の注意
教育基礎学分野	教育学	教育人間学特論	2	1	前期	講義	２科目４単位以上選択必修
		教育史特論	2	1	前期	講義	
		教育課程特論	2	1	後期	講義	
		教育行政学・教育経営学特論	2	1	前期	講義	
		教育社会学特論	2	1	後期	講義	
		比較教育学特論	2	1	前期	講義	
		道徳教育学特論	2	1	後期	講義	
	教育心理学	教育心理学特論	2	1	前期	講義	
		応用教育心理学特論	2	1	後期	講義	
		発達心理学特論	2	1	後期	講義	
		教育社会心理学特論	2	1	前期	講義	
教育内容指導学分野	初等教育学	国語科指導学特論	2	1	後期	講義	初等教育学コースはこの領域区分より６科目12単位以上選択必修
		社会科指導学特論	2	1	後期	講義	
		算数科指導学特論	2	1	後期	講義	
		理科指導学特論	2	1	後期	講義	
		音楽科指導学特論	2	1	前期	講義	
		図画工作科指導学特論	2	1	前期	講義	
		体育科指導学特論	2	1	前期	講義	
		道徳教育指導学特論	2	2	前期	講義	
		児童英語指導学特論	2	2	前期	講義	
	幼児教育学	健康指導学特論	2	1	後期	講義	幼児教育学コースはこの領域区分より６科目12単位以上選択必修
		人間関係指導学特論	2	1	前期	講義	
		言葉指導学特論	2	1	後期	講義	
		環境指導学特論	2	1	前期	講義	
		表現指導学特論	2	1	後期	講義	
		保育内容指導学特論	2	1	後期	講義	
		子育て支援特論A	2	1	前期	講義	
		子育て支援特論B	2	1	後期	講義	
教育支援学分野	養護教育学	健康教育学特論	2	1	前期	講義	養護教育学コースはこの領域区分より６科目12単位以上選択必修
		学校看護学特論	2	1	後期	講義	
		学校保健学特論	2	1	前期	講義	
		養護実践学特論	2	1	後期	講義	
		健康科学特論	2	1	前期	講義	
		生命科学特論	2	1	後期	講義	
		応用栄養学特論	2	2	前期	講義	

授業科目の区分		授業科目	単位数	配当年次	開講期	授業形態	履修上の注意
教育支援学分野	特別支援教育学	障害児心理学特論Ⅰ	2	1	前期	講義	特別支援教育学コースはこの領域区分より６科目12単位以上選択必修
		障害児心理学特論Ⅱ	2	1	後期	講義	
		障害児臨床教育学特論Ⅰ	2	1	集中	講義	
		障害児臨床教育学特論Ⅱ	2	1	後期	講義	
		特別支援教育史特論	2	2	前期	講義	
		特別支援教育課程特論	2	2	後期	講義	
		取り消し					
		障害児支援学特論	2	1	前期	講義	
		応用学習心理学特論	2	1	後期	講義	
		障害児就労支援学特論	2	1	後期	講義	
		肢体不自由児教育学特論	2	2	前期	講義	
		発達障害児心理学特論	2	2	前期	講義	
		病弱児心理学特論	2	2	集中	講義	
		障害児脳機能障害特論	2	2	後期	講義	
		特別支援教育コーディネーター特論	2	1	前期	講義	
	教育臨床心理学	臨床心理学特論Ⅰ★	2	1	前期	講義	教育臨床心理学コースはこの領域区分より12単位以上選択必修
		臨床心理学特論Ⅱ★	2	1	後期	講義	
		臨床心理面接特論Ⅰ★	2	1	後期	講義	
		臨床心理面接特論Ⅱ★	2	2	前期	講義	
		臨床心理査定演習Ⅰ★	2	1	前期	演習	
		臨床心理査定演習Ⅱ★	2	1	後期	演習	
		臨床心理基礎実習Ⅰ★	1	1	前期	実習	
		臨床心理基礎実習Ⅱ★	1	1	後期	実習	
		臨床心理応用実習Ⅰ★	1	2	前期	実習	
		臨床心理応用実習Ⅱ★	1	2	後期	実習	
		臨床心理応用実習Ⅲ★	2	2	通年	実習	
		心理学研究法特論	2	1	前期	講義	
		心理統計法特論	2	1	後期	講義	
		臨床心理学研究法特論	2	1	前期	講義	
		社会心理学特論	2	1	後期	講義	
		家族心理学特論	2	2	前期	講義	
		精神医学特論	2	2	後期	講義	
		認知行動療法特論★	2	2	前期	講義	
		投映法特論★	2	2	後期	講義	
		遊戯療法特論★	2	1	集中	講義	
		学校臨床心理学特論★	2	2	後期	講義	
教育実践学分野		教職実践研究Ａ（幼･小）	4	1	前後	実習	
		教職実践研究Ａ（養護）	4	1	前後	実習	
		教職実践研究Ａ(特別支援)	4	1	前後	実習	
		教職実践研究Ｂ（幼･小）	4	1	前後	実習	
		教職実践研究Ｂ（養護）	4	1	前後	実習	
		教職実践研究Ｂ(特別支援)	4	1	前後	実習	
修了研究指導		修了研究指導Ⅰ	2	1	前期	演習	必修
		修了研究指導Ⅱ	2	1	後期	演習	必修
		修了研究指導Ⅲ	2	2	前期	演習	必修
		修了研究指導Ⅳ	2	2	後期	演習	必修

★教育臨床心理学コースの在籍学生のみ履修可能

２　履修上の注意

本研究科の修了要件は，2年間で32単位以上を修得し，修士論文の審査及び最終試験に合格することである。

⑴　２年以上在学して，前記の教育課程（授業科目表）より，自分の研究領域に従い，指導教員の指導のもとに，所定の単位を32単位以上修得すること。

⑵　修士論文には単位を付さないが，修士課程を修了するためには，修士論文を完成させ，論文審査及び最終試験に合格すること。

３　修士論文の作成等について（詳細は４月に掲示）

修士論文は，修士課程在学中の研究成果である。

修士論文を提出しようとする者は，あらかじめ指導教員の承認を得た論文題目を４月末までに研究科長に届け出ること（教務課に提出）。

修士論文提出までには，次のような手順を踏むものとする。

・１年次修了までに，概ね20単位以上を単位取得しておくことが望ましい。

・１年次に研究発表を２回行う。

　10月，２月

・２年次に研究発表を１回行う。

　10月。

提出する修士論文及びその要旨の作成様式，枚数等は，以下のとおりである。

教育学専攻

提 出 物　修士論文３部，論文要旨３部

修士論文

論文枚数　400字詰め原稿用紙80枚以上

ワープロで作成の場合は，次の書式により40枚以上とする。

論文ページ設定

- Ａ４横書き
- 32字×25行（10.5ポイント）
- 余白の目安　左４cm，右・上・下はいずれも３cm
- フッター　中央にページを入れる。

論文要旨

- A4横書き　2枚
- 35字×30行（10.5ポイント）
- 余白の目安　左４cm，右・上・下はいずれも３cm
- フッター　中央にページを入れる。

修士論文の提出場所・締切

提出場所　教務課

提出締切　１月中旬　16：00

教育学研究科紀要原稿の提出

修士論文を提出し最終試験に合格した者は，修士論文をもとにした要録を「就実大学大学院教育学研究科紀要」に投稿することで，研究成果を公開する。

提出締切　１月中旬　16：00
提出先　　教務課
提出物　　修士論文の内容を要約したもの
分　量　　Ａ４横書き１枚
様　式　　ページ設定は「就実大学大学院教育学研究科紀要」執筆要項に従う。

４　在学中の学会参加・学会発表について

修士課程在学中に学会参加・発表する場合は，院生学会参加補助制度がある。詳細については研究指導教員に相談すること。

５　在学中の論文投稿について

修士課程在学中に「教育学研究科紀要」に投稿することができる。詳細については，研究指導教員に相談すること。

６　修士論文の審査基準に関する内規

就実大学大学院教育学研究科教育学専攻　学位論文審査基準

修士論文を主査と副査が査読し，修士論文審査会における修士論文発表と口頭試問を経て，修士論文の合否を総合的に評価する。

修士論文査読

１．研究テーマの適切性：研究目的が明確で，課題設定が適切になされていること。
２．情報収集の度合い：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し，立論に必要なデータや資史料の収集が適切に行われていること。
３．研究方法の妥当性：研究の目的を達成するためにとられた方法が，データ，資史料などの処理・分析・解釈の仕方も含めて，適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり，それらが一定の説得力を有していること。
４．論理の一貫性：全体の構成も含めて論理展開に整合性，一貫性があること。
５．独創性：当初設定した課題に対応した明確かつ独創的な結論が提示されていること。
６．論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており，要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関して学術論文としての体裁が整っていること。
７．学術的意義：研究成果の学術的意義を提示していること。
８．社会的・教育的寄与：研究成果の社会的・教育的な寄与を提示されていること。
９．倫理的配慮：研究計画の立案および遂行，研究成果の発表ならびにデータの保管に関して，適切な倫理的配慮がなされていること。また，学内の倫理規程や研究テーマに関連する学会や団体の倫理基準等を遵守していること。

上記の観点から，修士論文を以下の100点満点（５段階）で評価する。

90～100点（Ｓ）：特に優れた論文である
80～ 89点（Ａ）：優れた論文である。
70～ 79点（Ｂ）：おおむね良好な論文である。
60～ 69点（Ｃ）：いくつかの問題点はあるが，修士論文として認定しうる。
59点以下　（Ｄ）：修士論文としての水準に達していない。

修士論文審査会（修士論文発表会・最終試験口頭試問）

1．研究の目的や意義を正しく理解しているか。

2．結果に至るまでの過程を理解しているか。

3．限られた時間内に適切に伝え，結果を分かりやすく論理的に表示できたか。

4．結果に対する考察を論理的，明快に表明できたか。

5．研究成果の学術意義について理解しているか。

6．研究成果の社会的・教育的な寄与について理解しているか。

7．試問（質問）に対して適切に応答できたか。

上記観点から最終試験を以下の100点満点（５段階）で評価する。

90～100点（S）：特に優れた研究が行われ，独力でさらなる研究の発展が期待できる。

80～ 89点（A）：優れた研究が行われ，独力でさらなる研究の発展が期待できる。

70～ 79点（B）：おおむね良好な研究が行われたと認められる。

60～ 69点（C）：不十分な点がいくつかあるが，一定程度の研究が行われたと認められる。

59点以下　（D）：適切な研究が行われたとは，いいがたい。

修士論文の合否の判定

修士論文審査及び最終試験のいずれかが59点以下（D）であれば否（不合格）とする。

修士論論文審査及び最終試験のいずれもが60点（C）以上であれば合（合格）とする。